

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	0173600495		
法人名	医療法人社団 玄洋会		
事業所名	グループホーム あすなろ		
所在地	苫小牧市字樽前237番地1 (電話) 0144-67-8881		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北一条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年10月31日	評価確定日	平成20年12月18日

【情報提供票より】 (20年10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年 1月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤15人 非常勤 2人 常勤換算11.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円		水光熱費 12,000円
	その他の経費(月額)		暖房費(10~3月)5,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (10月 31日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	3名	要介護2	5名
要介護3	6名	要介護4	4名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 83.1歳	最低 68歳	最高 93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団玄洋会 道央佐藤病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、精神医療、高齢社会の福祉を基幹とする総合病院を本部とした、各種の老人福祉施設を背景に運営されており、特に高齢者認知症に対する専門的な指導と支援が行き届いています。樽前山麓という立地で近隣住民が少ないなどの条件下にありながら、地域との支え合いなど理念に基づく地道な努力が続けられています。ホーム内では利用者の自助能力の維持回復を目的に音楽療法が毎週行なわれており、楽しい歌声に加え、明るい表情や会話も回復するなど、大きな効果が生まれています。スタッフは、利用者との共生を図りながら、自らのスキルの向上を図るため、資格取得などの努力が見られます。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、6項目の取組みを行なうこととしていましたが、管理者始めスタッフの努力により全ての項目で改善、もしくは着手が見られます。この改善を契機として、より一層のサービスの質の向上を期待します。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価の作成に当たっては、スタッフの全てが参加して作られています。ユニット毎で利用者の状況やスタッフの経験などを踏まえた中から課題を見つけ、これまで同様に着実な対応が期待されます。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>これまでに10回の会議開催があり、グループホームの理念などを通して、理解を得るための努力が重ねられています。今後もメンバー構成及び議題内容に柔軟性を持たせながら、より充実した会議の運営を期待します。また、評価への取組みを公表しながら、進捗状況のモニター役を担ってもらうなどの取組みを期待します。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族からの意見や要望、苦情などは、専ら家族の来訪時の会話や電話での会話によって聞いていますが、管理者及びスタッフは些細な事柄も聞き流すことなく、必ずメモをとり迅速な共有と改善に着手するなど、サービスの質の向上に反映をするよう心掛けています。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>樽前山麓に位置して地域とのつながりが困難な条件下にありながら、利用者の地域での暮らしをより深めるための努力が続けられています。小学校の運動会、学芸会見学や廃品回収行事への参加などを通して地域とのつながりの輪は着実に広がっています。今後は町内婦人会や老人会との交流も予定され、益々地域との連携が深まりを見せることを期待します。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域的に住民が少ない環境下にあつて、理念の追求には難しい点もありますが、地域と利用者との係わりを深めようとの努力が繰り返されています。今後は色々な会合を通して、これまで以上に理念が地域に理解や浸透することが期待されます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、スタッフによる理念の復唱により、理念に沿ったサービスの提供ができるよう確認を取り合っています。また、理念に基づくケアの目標を立て、積極的な検討をしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は小学校の運動会や学芸会に招待を受け、楽しみにしながら参加しています。また、小学校の廃品回収活動にも参加協力するなど、地域とのつながりを大切にしています。今後は町内婦人会や老人会との交流も予定されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成に当たっては、全てのスタッフが評価の意義を理解して、日頃のサービス提供の中での気づきを分かる範囲で持ち寄って作られています。		

苫小牧市 グループホームあすなる

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまでに10回の会議の開催が見られます。地域性を考慮しながら、地域に溶け込んだホーム運営に活かす努力が重ねられています。今後もメンバー構成や議題内容に柔軟性を持たせながら、より充実した会議の運営を期待します。	○	地域にあって、グループホームの理解を得るため、町内会の婦人会、小学校の教師、地域のボランティアなど議題に沿って、柔軟にメンバーを招聘する。更には評価への取り組みの進捗状況を公表しながら、モニター役を担っていただくなどの取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度から市で行なう認知症に係わる啓発活動に、ホーム長がキャラバンメイトとして参加、専門的な講義を行なうなどしています。また、介護保険や生活保護に関する相談など、市の担当者との連携が深まっています。		
4、理念を実践するための大成					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真をふんだんに使って、ホームでの利用者の暮らしを紹介する「あすなるだより」は家族に好評を博しています。また、担当するスタッフによる手書きのお便りは、利用者の暮らしの中の表情や体調が細やかに書かれており家族の安心に繋がっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には「ご意見箱」が設置されていますが、家族の意見や要望などは、専ら来訪時の会話や電話での会話により得ています。スタッフはこれら些細な会話も記録し、共有を図りながらサービスの質の向上に役立てています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近スタッフの離職を含めた異動は少なく、スタッフ間の連携も良く図られており、利用者との馴染みの関係が維持されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は認知症に係わる専門家でもあり、スタッフには適切な指導や教育の機会が与えられています。年間を通しての研修計画による実践や外部研修の機会を与えられ、特に介護福祉士など、資格の取得に関しては優遇措置が取られるなど、教育への熱心さが見えます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道内のグループホーム協議会や市内の連絡会を通して、ほかの業者との情報交換や交流が続いています。管理者に加えスタッフの参加も企画され、相互訪問などによりサービスの質の向上が図られています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	運営者の経営する同一敷地内の認知症デイケアからの入居が多いため、環境的には変化が少ない状況下にあります。入居前には、面接や訪問をさせていただき馴染みながら、ホームでの暮らしが出来るよう配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者とスタッフは、介護という行為を家族同様に「共生」できる生活の延長線上に考えており、ともに過ごし、お互いに支え合いながらの暮らしを保持しています。家事の色々な作業、外での畑作業や散歩など、メリハリある生活を大切にしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自らの思いや意向を上手に伝えることができないことが多く、スタッフは否定することを避けながら受け止め、利用者が真に伝えたいことを眼や話し方で把握すよう努めています。困難な場合でもスタッフ皆で考えるなど、個人の先入観での判断を避けるようにしています。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成では、家族との相談を優先させて、意見や要望が計画に反映されるよう配慮し、アセスメント、モニタリングを基礎としたカンファレンスで情報を共有しながら作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と相談をしながら介護計画の見直しは6カ月の期間で行なわれています。また、体調など状態変化が生じた場合は、その都度見直すなど、現状に合った柔軟な見直しが行なわれています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況により、病院の受診など家族に代わって付き添いや送迎への対応が行なわれています。また、過去においては重篤な利用者に対し、医療連携を活かしながら、ホームでの生活維持が出来るよう努めるなど、多機能を活かした支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営者が協力医療機関でもあり、認知症の専門病院であることから、利用者の多くが、かかりつけ医として受診、治療が行なわれています。ホームと同じ敷地内にあり、24時間の往診対応も可能となっています。今後は眼科や整形外科の往診治療も予定されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への対応に係わる方針を入居時に利用者と家族に説明して、理解を得ていますが、状況の変化には再度医師を交えた家族との協議が行なわれて、スタッフを加えた全員での共有がされています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの確保に資するための研修が行なわれています。「あすなろだより」などの写真の掲載には家族の承諾（個人情報に関する同意書）を得るなど慎重さが見えます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性やその人らしい生活が維持できるよう気配りをして支援しています。スタッフの都合を排除しながら、要望に対して時間を掛けて、ゆっくりと対応するように心掛けています。		

苫小牧市 グループホームあすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングには中央部にオープンキッチンが設けられており、全体が見渡せるなど開放感に満ちた中で、楽しい食事が展開されています。利用者の全てが自ら着席するなど、自助能力の維持、啓発も行なわれています。スタッフは利用者とともに楽しい会話をしながら、さり気ない支援が行なわれています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの浴槽には敷地内の温泉井戸から直接天然の温泉が引き込まれており、利用者は温泉入浴を楽しんでいます。1週間に3回以上の入浴を勧めています。利用者の要望に沿って支援がされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時、また、ホームでの暮らしの中から得た利用者の生活歴の情報を参考にして、趣味や農園での作業などを楽しんでいただく支援をしています。特にホーム内での音楽療法は歌ばかりでなく、リズム体操も加わり笑顔や会話の復活、また、夜間の熟睡にも役立つなど、大きな効果をもたらしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域的な条件で、同じ敷地内の病院やメンタルケアセンター、少し遠くのポニー牧場やカルガモの生息する池などへの散歩が繰り返されています。ホーム前の「あすなろ農園」での野菜作りも楽しみのひとつとなっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	二つのユニットは終日開放され、利用者の行き来は自由に行なわれています。また、各居室は利用者によっては内部からの施錠もありますが、安心した睡眠を得るためにと自由にお任せしていません。表玄関のみ夜間施錠 (PM7:00~AM7:00) をして、防犯に配慮しています。		

苫小牧市 グループホームあすなろ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	活火山である樽前山の噴火災害を想定した防災訓練が年に1度行なわれています。市の防災課、自衛隊やヘリコプター、警察を含めた大掛かりな防災訓練で利用者も実際の避難に参加するほか、災害時の備品や食料品の確保もあります。また運営法人グループ内でも火災などの避難訓練が行なわれています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量は、一人ひとりの状況に応じてチェック表で把握しながら支援されています。食事の献立は利用者の希望を取り入れながら、スタッフが作っていますが、食事の量や栄養のバランスは、協力医療機関の管理栄養士のチェックを受けて適正な支援ができるよう配慮がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたリビングとキッチン天井が吹き抜けとなっており、天井からの淡いダウンライトと相まって安らぎの空間となっています。天然温泉が引かれた浴室や、清掃の専門スタッフによる毎日の清掃など、居心地の良い環境の中で、利用者のゆったりとした生活が営まれています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の面積が基準の2倍以上もの広さで、利用者の使い慣れた家具などが整然と並べられています。衣類などを収納するインターシェルフも設置され、洗面台も完備されるなど、生活にゆとりを与えています。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。